

乳幼児の難聴

生まれつき耳の聞こえが悪いと、言葉が身につかず、話が出来ないまま成長してしまします。生まれつきの難聴は一人の出生に対して、約5～8人のわりあいといわれています。その原因は遺伝によるもの、母親の胎内での異常、出産前後の病気、流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）などいろいろとあります。

あなたのお子さんの耳を診察した結果、鼓膜から、中耳迄には異常は認められません。内耳より奥の異常は外からではみえません。精密な聴力検査をする必要があります。あなたのお子さんの年齢では、まだ幼すぎて普通の聴力検査はできません。

以前は、お子さんが大きくなって、普通の聴力検査が出来るようになる迄、様子を見てくださいと、御両親にお話するのが普通でした。しかし、今の耳鼻咽喉科専門医の考え方はちがいます。「**乳幼児の聴力検査の出来る病院で、出来るだけ早く、精密検査を受けてください**」と、御両親に御指示するのが常識になっています。その理由は本当に難聴があるなら、一日も早く補聴器をつけて、言葉を聞きとる訓練をしないと、一生涯言葉が身につかず、お子さんを不幸にするからです。

現在は、補聴器による言語訓練より、進んだ“人口内耳”という方法もあります。

精密検査を御希望なら、紹介状をお書きしますからお申しで下さい。

矢野耳鼻咽喉科 医学博士	藤沢市善行 1-25-11 日本耳鼻咽喉科学会専門医 日本耳鼻咽喉科学会専門医 日本耳鼻咽喉科学会専門医	8 1 矢野 矢野 矢野	3 5 4 1 潮 ゆかり さゆり
-----------------	---------------------------------------------------------------	-----------------------	----------------------------